

シリーズ

大阪壊し 橋下流

維新政治を問う

②市民の足はいま(上)

赤バス廃止その後

市民の声には耳を一切貸さずに

橋下徹大阪市長が13年3月末に赤バス(コミュニティ系バス)の廃止を強行してから間もなく丸2年になろうとしている。02年に導入され、通院や買い物はじめ高齢者や障害者など「交通弱者」の外出を支援する「市民の足」となってきた赤バス。しかし橋下氏は「いままでの考え方はすべてリセットする」と言い放ち、存続を求める利用者や市民の声に一切耳を貸しませんでした。

生野区では赤バス廃止後、何の代替措置もありません。同区の東南部、東大阪市に接する巽東2丁目に住む百瀬千代子さん(81)に実情を聞かせてほしいとお願いすると、近所の高齢女性7人が集まってくれました。「いまでも、『赤バスがあったらええのに』とい

う話がよく出る」「ほんまに難儀や」「外国人の観光客にカジノに来てもらうとか言うけど、ここに住んでいる私らはどうなるのか」――次々に出た声です。百瀬さんは「若い人、ある女性(77)は「元気がよく出る」「ほんまに30分は覚悟します」。

事とはいえ、辞めてしまったら、張り合いがなくなりました」(夫(83)は掛かり付けの病院3カ所のうち1カ所は、赤バスを利用して天王寺区の警察病院に出掛けていましたが、いまは往復ともタクシー。「お医者さん代よりタクシーの方が高いときもありますが、病院に行かないわけにはいきません」

大都市に「交通難民」が出現

「交通手段ない」と外出をやめる 区内の民主団体などで

元気な人には分らないかも知れませんが、年をとればとるほど、外に出るのが大変になるんです」と切り出しました。

病院に行くため 乗り継ぎに30分

百瀬さんはかつて赤バスで区内の中心部に通院していましたが、いまは市バスを乗り継がなければなりません。昨年4月の路線削減・減便で、バスは1時間に1本しかなく、乗り継ぎの待ち時間



市バスは1時間に1本に(生野区異地域)

赤バス廃止後の各区の対応

	13年度	14年度	15年度(計画)
西淀川区	○	○	○
東淀川区	○	○	○
旭見区	○	○	○
住之江区	○	○	○
西成区	○	○	×
福島区	×	○	×
淀川区	○	○	×(※4)
港東区	○	×	×
城東区	○	×	×
阿倍野区	○	×	×
平野区	○	×	×
都島区	○	×	×
此花区	△	×	×
大正区	△	×	×
天王寺区	×	×	×
住吉区	×	×	×
北区	×	×	×
浪速区	×	×	×
生野区	×	×	×
東住吉区	×	×	×

○=小型バス運行(民間委託)など何らかの代替措置、×=廃止、△=病院などの送迎バスへの負担金

次の区は橋下市政以前に廃止。東成(09年)、中央(08年)、西(同)

- ※1 = 13年度のみ旧赤バスルート在市バスが運行
- ※2 = 市バスの新路線が実現
- ※3 = 旧赤バスルートに近い形で市バスが運行
- ※4 = 15年9月末で廃止
- ※5 = 民間事業者が自主参入

めの実態調査をしたい」と言明。13年11月にまとまった調査結果報告書によると、高齢者の中で「外出自体をやめた」が1割、「外出回数を減らした」が3割もあることが明らかになりました。「外出を取りやめた理由」では、「身体的負担が大きい」が5割、「代替交通手段がない」が4割に上っています。

「区長に丸投げで代替措置は後退 橋下氏は「コミュニティバスは別に赤バスでなくても十分やっていける」「区長を中心にいろんな知恵を使う(12年5月)として、赤バス廃止後の「事業再構築」を12年8月に就任した公募区長に丸投げしました。その結果はどうか。当時赤バスが走っていた21

まう。悪循環ではないですか」と問い掛けます。区長に丸投げで代替措置は後退 橋下氏は「コミュニティバスは別に赤バスでなくても十分やっていける」「区長を中心にいろんな知恵を使う(12年5月)として、赤バス廃止後の「事業再構築」を12年8月に就任した公募区長に丸投げしました。その結果はどうか。当時赤バスが走っていた21

「いままでの『都構想になれば住民サービスが悪くなる』なんて、そんなの大ウソ――各地の街頭タウンミーティングで叫ぶ橋下氏。「だまさせん」

住民サービスは「大阪都」で低下

「区の調査でも赤バス廃止の影響は深刻。そして、高齢者はこれから増えていきます。住民要求に基づき地域の交通ネットワークをつくるには、行政が責任を果たすことがどうしても必要です。だからこそ、大阪市の廃止・解体は絶対に許せません」